

第2回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

日時：令和7年8月27日（水） 参加者：29名（うち市町村から16名）

会場：秋田県生涯学習センター 講堂

県内の生涯学習・社会教育関係職員や公民館、市民センター等の社会教育施設の職員に求められる資質や力量を高めることを目的として「防災を楽しく学ぼう」をテーマに、今年度2回目の研修を行いました。

【講話】

午前は、日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部 講師の**及川 真一氏**が、「アウトドア防災のすすめ」と題して講話を行いました。まず、近年秋田県では頻繁に水害が発生しており、地域住民が意識と行動を変えて災害に備える必要性があることについてふれられました。

また、ボランティア側は災害が起きた際、給水所や炊き出し場所に行けない住民もいるという事実を受け止め、被災者に寄り添いながら一人ひとりのニーズに応じた丁寧な支援体制を整えることが大切であると指摘されました。同時に、泥や流木の撤去に重機を扱う技術系ボランティアを増やしていくことの重要性も訴えられました。各地域では、今後住民が「参加」したくなるような体験型のプログラムを実施し、年齢や障害に関わらず個人の防災スキルを高める必要があることが強調されました。災害時に対応できる力を養うには、マニュアル通りの訓練ではなく、実際に火を起こしてご飯を炊くなど、楽しみながら実践力を身につけることが重要で、地域全体で取り組みながら意識を高めることが望ましいと述べられました。



【講話・演習】

午後は、会場に並べられた最新防災グッズの特徴や使用方法について学びました。特に、10年前の物に比べて性能や容量が飛躍的に進歩している補助電源で大型扇風機を動かしたり、泥水を濾過器で澄んだ飲料水に変えたりする実演に参加者は大きな驚きを示していました。そして、様々な防災グッズを手に取り、それらを活用した防災講座の企画について意見交換をしました。講師からは、地域の防災対策は口頭で情報を共有するだけでなく、気象情報アプリのようなデジタルツールの活用方法を住民に教えることも有効で、それによって住民は自ら早期に行動できるようになり大きな被害から回避できることが示されました。グループワークでは、公民館の防災対策に関わる取組を地域と共有している様子や取り組もうとしている事柄について話し合いました。及川氏は、水害の被災地でボランティアとして集まった人たちが作業効率を優先し、再利用できる木材や思い出の品を捨ててしまうケースがあると指摘し、専門知識をもつスタッフが見立てを行い、被災者への丁寧な説明と確認が必要だと述べました。結びに、災害後の生活再建には、悪質な業者による詐欺被害のリスクがあることを住民に周知するための講座の開設が有効であることなど、公民館が果たす役割の重要性を訴えました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・及川先生の分かりやすく実践的なお話をうかがい、大変有意義な時間となった。特に、「豪雨災害からの復旧」やボランティア活動については、災害後の地域への対応について具体的な事例を交えて説明いただき、非常に参考になった。
- ・避難所となる公民館で、職員だけでなく地域の方の協力を得て、運営する際に役立つ講座を企画したい。